

# 学校だより 特別号



特集

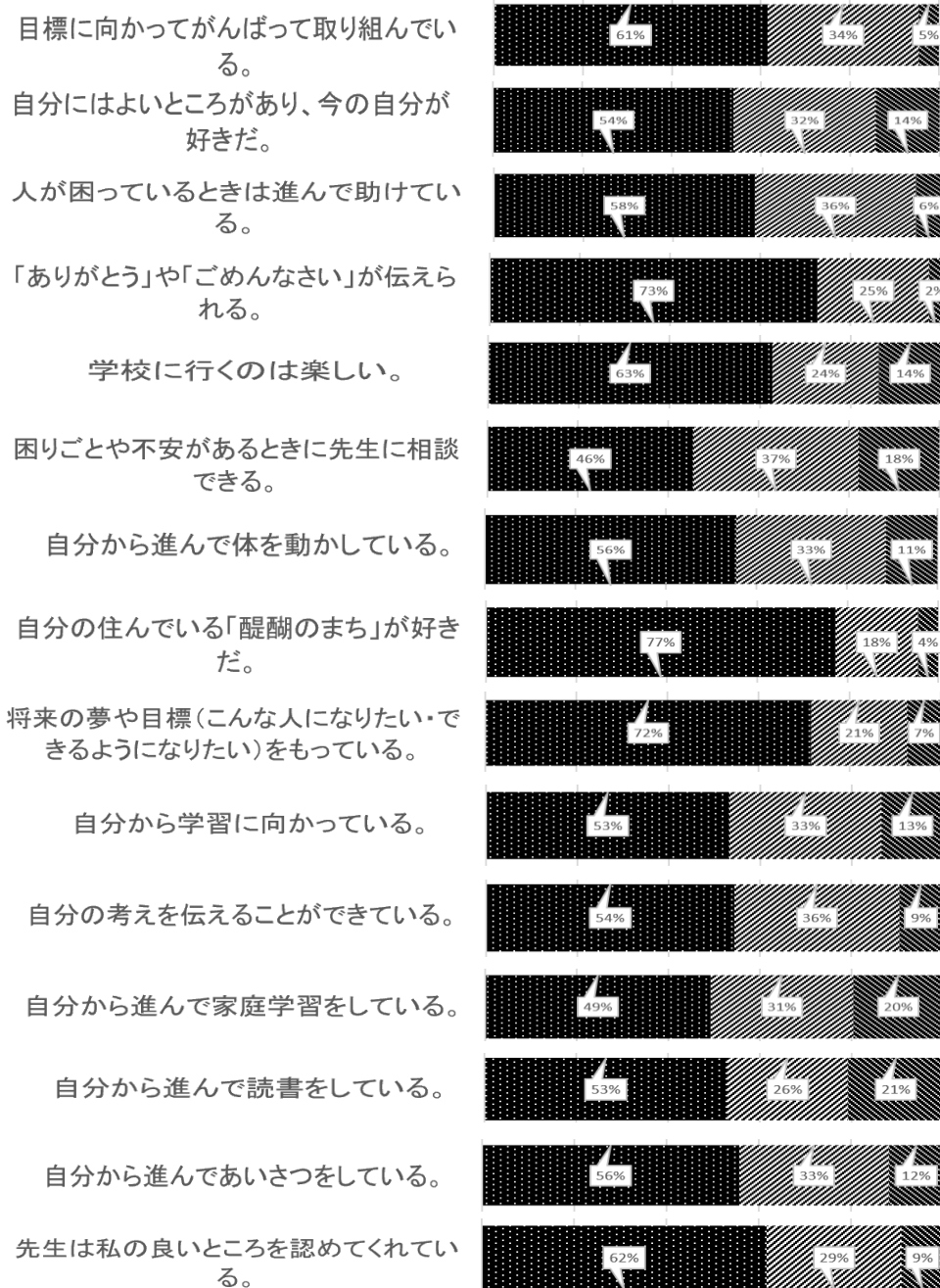
学校評価

令和6年度

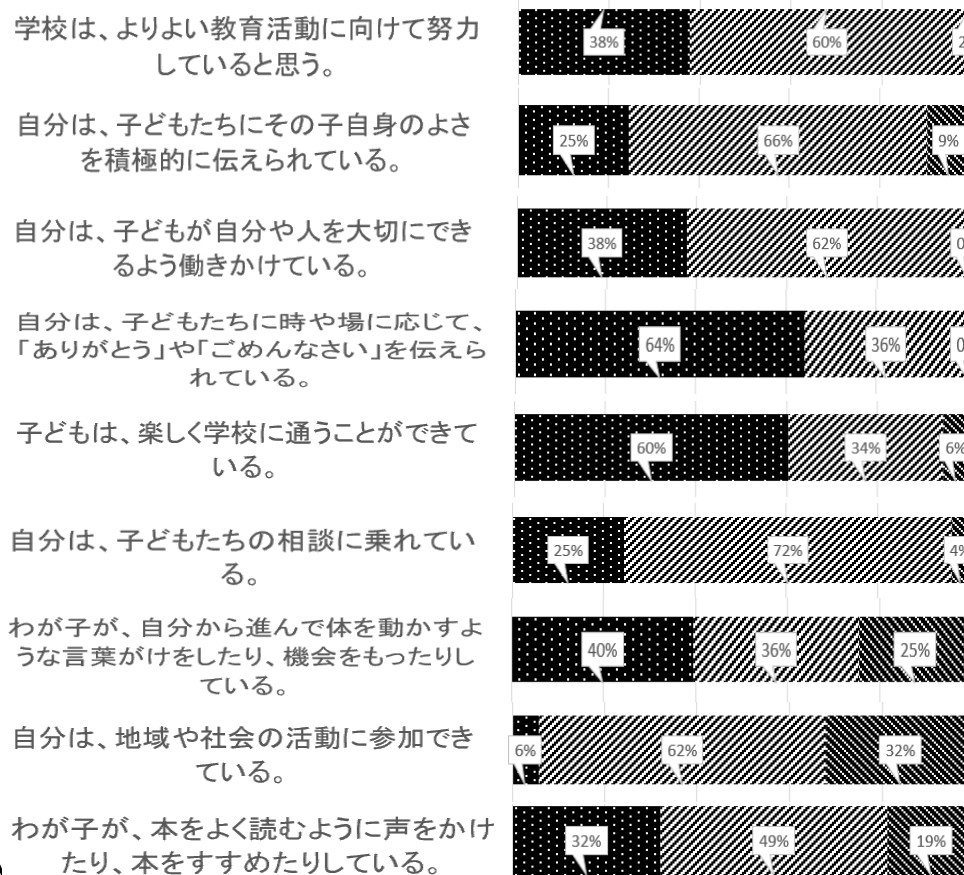
京都市立醍醐小学校 校長 横山 知史

本校では、学校教育目標の実現を目指し、学校評価としてアンケートを行っています。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。「自分は、子どもたちにその子自身のよさを積極的に伝えられている」という項目は、保護者も教職員も9割以上の方が、肯定的な回答をされています。また、児童アンケートの「自分の住んでいる醍醐のまちが好きだ」という項目も約95%の児童が肯定的な回答をしています。学校・家庭・地域の大人たちの、醍醐に住む子どもたちへのあたたかいまなざしが、今回の児童アンケートのいずれの項目も肯定的な回答がほぼ8割を超えている結果につながっているのだと感じています。

## アンケート【児童】



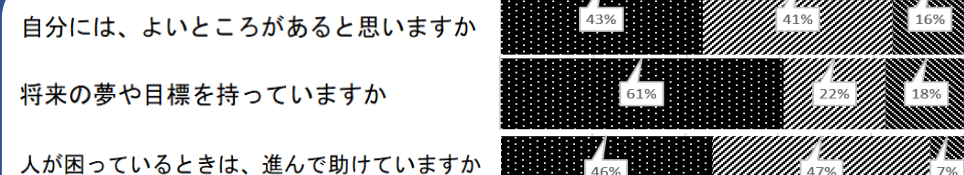
## アンケート【保護者】



【参考】全国的な傾向は・・・

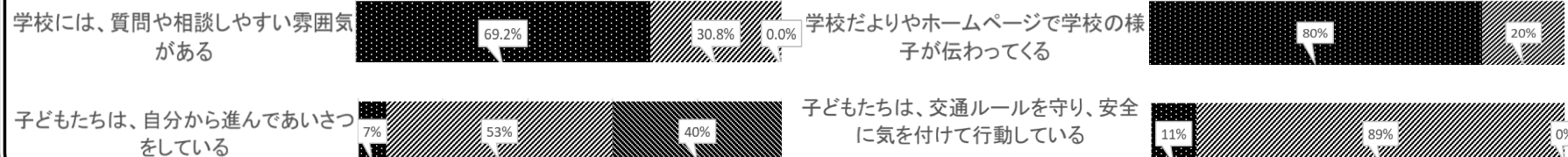
## 今の自分が好きだ

内閣府「子ども・若者の意識と生活に関する調査」報告書（令和5年3月）内、「10歳～14歳対象調査」より

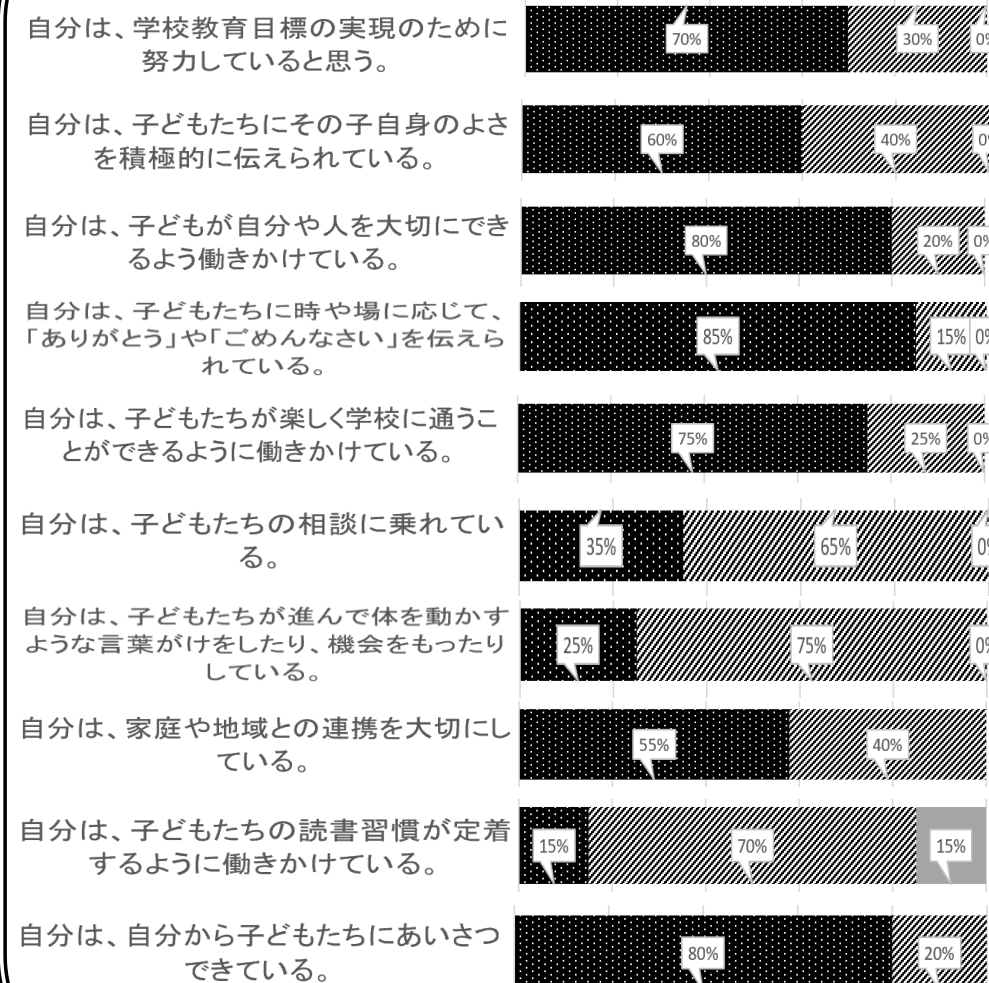


文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度 全国学力・学習状況調査」報告書「児童質問紙」より

## アンケート【地域】



## アンケート【教職員】



## グラフの見方

質問項目



「今の自分が好きだ」本校では「そう思う」が54%、「だいたいそう思う」が32%という結果でした（内閣府の調査では、「そう思う」が34%、「だいたいそう思う」45%）。全国的な調査結果と比較してみても、自分を肯定的に受けとめている児童の割合が高いことが分かります。その一方で、自分を肯定的に受けとめられない児童も14%いることが分かります。まずは、教職員をはじめ、保護者の方、地域の方、身近な大人たちが、「自分を大事に」「人を大事に」している姿を見せることで、子どもたちを精一杯応援していけたらと思います。



## 「社会に出たときにどんな力を身につけてほしいですか。」(上位を紹介)

### 「保護者の方の回答」←

- 1 自分の考えやおもいを効果的に相手に伝える力← (57%)←
- 2 多様な人とおりがあいを付けて、他者とよりよく関わる力← (55%)←
- 3 「自分ならできる」という自己効力感 (42%)←

### 「地域の方の回答」←

- 1 自分の考えやおもいを効果的に相手に伝える力← (73%)←
- 2 自分で自分の気持ちをコントロールする力← (67%)←
- 3 多様な人とおりがあいを付けて、他者とよりよく関わる力 (40%)←

### 「教職員の回答」←

- 1 多様な人とおりがあいを付けて、他者とよりよく関わる力 (65%)←
- 2 自分で自分の気持ちをコントロールする力← (55%)←
- 3 自分の考えやおもいを効果的に相手に伝える力← (35%)←

### 「その他」に記入していただいた回答の中から←

紙面スペースの都合上、すべてのご意見を掲載することができません。申し訳ありません。←

様々なことに興味をもっており、覚えていくことも好きなので、その力を伸ばせればと考えます。ひとりで頑張るので、困ったときは助けを求められるようになってもらいたいです。←

【3年生の保護者の方から】←

「助けを求めること」は自分の弱みをさらすことでもあり、抵抗を感じる子もいるのかもしれませんが、でも、やりたいことがあるとき、自分には足りないところもあることを把握し「ここは自分にはできないから助けてほしい」とできそうな人に声をかけて頼ることも大切な力だと思います。「助けて」と言えるからこそ、助けを必要とする人の気持ちが分かるようになります。←

自分の興味のあること、好きなことを見つけて、粘り強く取り組んでもらいたいです。ひとりでは、何事も成し遂げられないので他者とのコミュニケーション力も培っていければと考えます。←

【1年生の保護者の方から】←

今後、情報はいくらかでも生成AIにもらうことができますが、自分が好きなことや何に興味があるのかは教えてもらえません。「おもしろい!と感じたらまずやってみたらいい」そんな心のもちようが何よりも大事だと考えます。大人がそれを奪うことのないように、気をつけていきたいものです。←

人にはそれぞれ長所があり、自分にはないが他の人がもっている長所をかりて目標を達成したり、ともに成長したりできるのではないかと考えます。知識が増えることにより多くの選択肢が増えていくので、知識もとても大切だと考えます。伝える力、伝え方はとても大切だと思います。何よりも大切なことは、まずは、自分で自分のことを好きになり、自分を大切にする生き方を選んでいくことが日々生きていく上で最も重要なことだと考えています。←

【6年生の保護者の方から】←

「他の人がもっている長所をかりて」こういう「だれもが弱みもあり、長所もあり・・・お互い様なんだ」という見方が広がっていけば、もっとみんなが生きやすい社会になるのではと感じます。「自分のことを好きになる」「自分の心と体を大切にできる」「自分の中の弱みも強みも自分が認めてあげられる」そのためにまず「自分を知る」ことが出発点かなと思います。←

「社会に出たときに」という条件のもとで考えると、個々の知識や学力・スキル等はあるに越したことはないものの、やはり大切なのは自他の関わり方に尽きるのではないかと実感しております。他者との関わりを学ぶことが、学校という場での大きな意義だと思います。←

【地域の方から】←

「他者との関わり方を身に付ける」ことの大切さは、保護者の方、地域の方、教職員に関わらず、大変高い割合で、そう感じられている方が多いことが分かりました。少し掘り下げてみます。

## 「他者との関わり方を身に付ける」①

大人の方でも、これまで「人間関係に悩んだことがない」という方は、おられないのではないのでしょうか。←

「暴力に頼らず対話の力によってトラブルを解決する」力は、子どもたちが社会に出たときに、不可欠な力だと思います。←

多様化が進む社会の中で、子どもたちが、この先どんなコミュニティに所属するにしても、必ずそこで、気が合う人、気が合わない人はでてくるのではないのでしょうか。そのたびに気が合わないことにネガティブに心が奪われていては、何よりも本人自身がしんどく、生きづらくなってくるのではと思います。(「嫌われる勇気」で有名なアドラー心理学でも 人の悩みの9割が人間関係と言われています。)←

### 小さなトラブルは、「人と関わる力」を学ぶ絶好のチャンスです。←

「解決するのはあなたですよ。」というメッセージのもと、励ましたり、何か手伝うことがないか尋ねたりすることが大事なのではないのでしょうか。←

みなさんは、どう思われますか。←

何か手伝えることはある?←

あなたは、どうしたいの?←



## 「他者との関わり方を身に付ける」②

人と関わることは、悩みもつきまといますが、子どもたちには、人と関わることのおもしろさにも目を向けてほしいと感じています。例えば、他者に関わり合うことで得られる幸せに「人にしてもらう幸せ」と「人にしてあげる幸せ」があると思います。どちらも大事な幸せですが、「してもらう幸せ」ばかりになってしまうと、←

してもらってありがたい(感謝) → してもらって当然(当たり前)←

になってしまいます。←

そうすると、うまくいかないことがあったとき、それを「他者のせい」「状況のせい」にし、自分以外の人やものに矢印を向けるくせがついてしまいます。←



起きなかったのは、起こしてくれなかった親のせいだ!←



仲直りができないのは、先生や親が何もしてくれないから←

本校では、「してもらう幸せ」と同じように「人にしてあげる幸せ」を実感できるように異学年での交流を積極的に進めています。←

1年生×6年生【国語科】←

1年生×2年生【校外学習】←

たてわりグループ【人権学習】←

